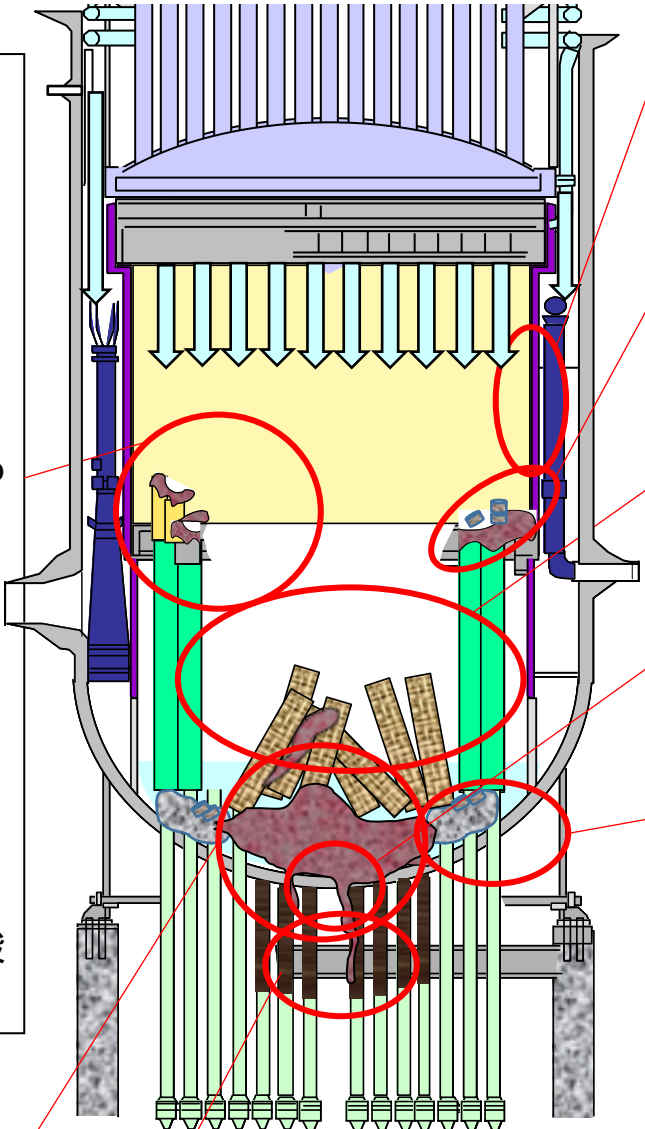


3号機のデブリ分布・RPV・PCV状態の推定図

凡例 (2017.3.14)

- ・水素発生によるPCV圧力上昇からエネルギー量を想定し、大部分の燃料が溶融したと推定 (実測・解析)
- ・平成25年12月9日～24日までCS系を停止した時 (FDWからの流量を増やし全注水量としては一定)、RPV各部で温度上昇は見られなかったため、炉心位置に存在する燃料デブリは少ないと推定 (2号機より少ない) (実測)
- ・CS系からの注水を始めた時 (平成23年9月1日) RPV下部温度が低下したため (注水量の総量も増加)、燃料デブリが下部プレナムにあると推定 (実測)
- ・燃料棒があるとしても外周部に一部 (一般的な推定)
- ・溶融燃料が固化した一般的な酸化物デブリと推定 (一般的な推定)

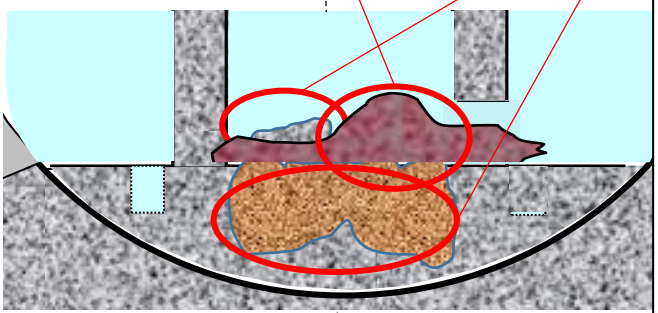


- ・現状シュラウドについては、健全な可能性および損傷のある可能性、双方考えられる。(一般的な推定・解析)
- ・外周部における燃料の温度上昇はそれほど高くない可能性があることから、ペレットが外周部に残っている可能性 (一般的な推定・試験・解析)
- ・高温の溶融デブリからの熱移動が小さい場合、一部のCRGTは溶けずに残る (一般的な推定)
- ・MCCIが起きていると考えられるため、圧力容器の下部は破損していると推定 (一般的な推定)
- ・粒子状デブリ・ペレットがある場合、淀み部にたまる可能性 (一般的な推定)

- ・下部プレナムに落下した燃料はRPV底部に残存する可能性あり (一般的な推定)
- ・注水量の低下操作に対して温度上昇まで時遅れがあり、圧力容器内に保有水がある可能性 (実測)

- ・燃料デブリの一部はMCCIを起こさず固化した可能性 (一般的な推定)

- ・CRGTの破損に伴いCRD内部にデブリが侵入している可能性 (一般的な推定)



- ・4号機に加えて、3号機でも爆発が起こっており、MCCIにより発生した水素が爆発に寄与した可能性が考えられる。(実測)
- ・一方、事故対応の中で3月13日7:39から1時間強DWスプレイを実施しており、圧力容器破損時にDW床に水位があると考えられ、燃料デブリの拡がりには抑制された可能性。(実測・一般的な推定)
- ・ペDESTAL開口部を通じて、燃料デブリがペDESTAL外まで広がるが、シェルアタックには至っていないと推定 (実測・解析)
- ・PCV床に水が溜まっていた場合、粒子状デブリが形成された可能性。(一般的な推定)
- ・粒子状デブリがある場合、淀み部にたまる可能性 (一般的な推定)

- 燃料棒
- 酸化物デブリ (多孔質)
- 粒子状デブリ
- コンクリート混合デブリ
- 健全CRGT
- 破損したCRGT
- 健全CRD
- CRD (内部にデブリ)
- 健全シュラウド
- ペレット
- ブルーニング燃料 ※
- 酸化物デブリ ※
- 重金属デブリ ※
- 粉状ペレット ※
- 被覆管残渣 ※
- 溶融炉内構造物 ※
- 固化B4C ※
- 制御棒混合溶融物 ※

※3号機の推定図中では使用していない